

## 6. データの管理および保存方法

サーバに蓄積された回答データは、業者社屋内の local ネットワークによる E-mail を通じて管理運用 PC および、サーバの自動バックアップによる保存と同時に、日に一度外部記録メディアに保存しました。また、データの受け渡し方法はパスワードによって保護したデータが納められた CD-R によって、週に一度業者から研究者へ搬送されました。

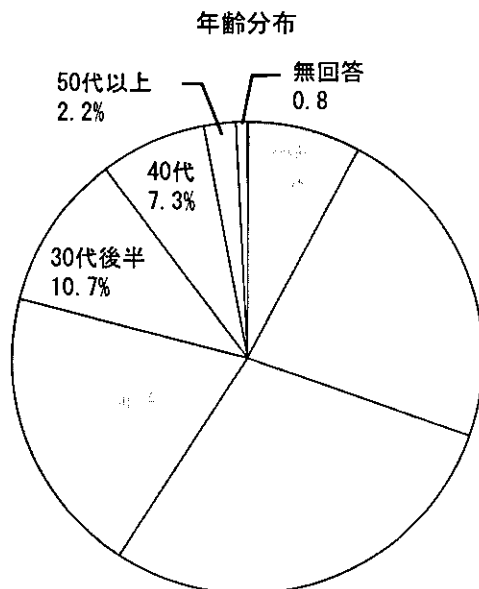
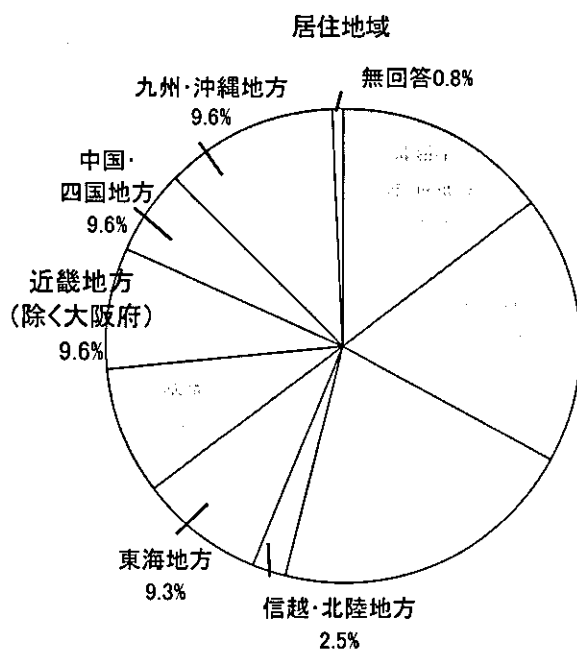
## 7. 研究参加者の取り込み基準 (inclusion criteria)

- 1) これまでに男性とセックスの経験のある男性であること。
- 2) ゲイコミュニティで使われている俗語によるワードトレーサーに反応すること。このワードトレーサーによって、質問票回答者が取り込み基準 1) に該当するかを判断する基準としました。
- 3) 質問票回答が初回であること。同一人物が同一端末より複数回に渡って質問票回答をしていないことを確認するために、クッキーをプログラム化しました。クッキー情報から、同一端末からの初回回答分のみを解析することを基本としました。同一端末から複数回に渡る回答がクッキー情報により確認された場合は、基本属性、自宅郵便番号および回答傾向から、同一人物が故意に重複回答したものであるかどうかを検討しました。重複回答検索のためのこのスクリーニング過程を徹底するために、クッキーを受け容れないブラウザからは質問票サイトにアクセスできないプログラムにしました。
- 4) さらに、同一人物による重複回答がされているかを検索するために、研究参加者のインターネット接続時の IP アドレスを検索しました。しかしながら、DHCP(Dynamic Host Configuration Protocol) 方式では個人に固定の IP アドレスが付与されているわけではないので、インターネット接続時のプロバイダを同定した上で、基本属性や自宅郵便番号および回答傾向から重複回答の可能性を検証しました。以上 4 点のスクリーニング要件を全て満たしたデータのみ、解析対象としました。

## 8. 倫理面への配慮

研究参加者に対して、本研究の目的と研究方法について説明した上で、以下の項目について Web 上で研究に参加にあたっての同意確認を質問票回答前に行いました。1) インターネット上に開設されているアンケート専用ページを通じて、アンケート回答という形で研究に参加すること、2) 研究参加にあたって、プライバシーは保護され、匿名で参加すること、3) セックスやメンタルヘルスに関する質問項目のいくつかは、場合によっては立ち入った質問のように感じるがあったり、不愉快な気分になる可能性があること。そういった場合やその他の理由で、アンケートの回答途中であってもいつでも自由にアンケート回答を中断する(研究参加を取りやめる)ことができること、4) 研究に参加しないという選択肢もあること、5) 研究に参加するにあたり参加費などは発生しないが、インターネット接続時のプロバイダ課金や電話料金は研究参加者の自己負担であること、6) アンケート回答が初回であること、以上の 6 項目について確認を行いました。また、研究参加にあたり不明な点や質問等がある場合は、研究者といつでも E-mail によって連絡が取れることを説明した上で、そのための研究者の E-mail アドレスを付記しました。そして、最後にもう一度全ての項目に同意した上で研究に参加する確認を行い、同意した者のみが質問票サイトへ進めるようにホームページをプログラムしました。

## 2. 基本属性



男性とセックスの経験がある男性の有効回答数は2,062人でした。このうち過去6ヶ月間におけるセックス経験割合は89.3%(1,842人)でした。研究参加者の居住地は47都道府県すべてにおよび、関東地方および東京都在住者が全体の約43%を占めていました。平均年齢は29.03歳(SD=8.02)であり(最低14歳—最高76歳)、年齢分布は20代から30代が全体の約80%を占めていました。

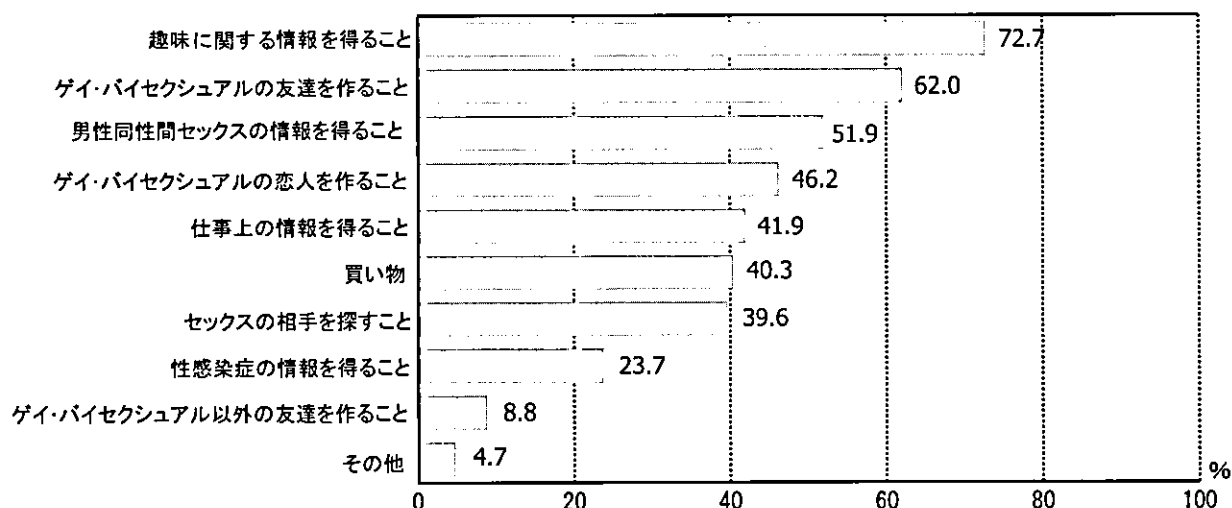
居住形態は親・兄弟と同居が最も多く約40%、職業は会社員・公務員・団体職員が約50%であり、学生の割合は20%でした。最終学歴は大卒以上が約60%であり、婚姻形態は90%以上が未婚でした。

自認する性的指向はゲイが約70%、バイセクシュアルが約21%であり、セックスしたい相手の性別は男性のみおよび主に男性が89%を占めました。また、男性の恋人がいる人は44%であり男性のセックスフレンドがいる人は30%でした。

カミングアウトの状況は、親にカミングアウトしている人は14%、親以外にカミングアウトしている人は51%でした。その他の基本属性は右表の通りです。

また、インターネット利用目的は「趣味に関する情報を得ること」が最も多く、次いで「ゲイ・バイセクシュアルの友達をつくること」「男性同士のセックスに関する情報を得ること」「ゲイ・バイセクシュアルの恋人をつくること」といったゲイ・バイセクシュアルに関連することを利用目的とする人の割合が多くありました。

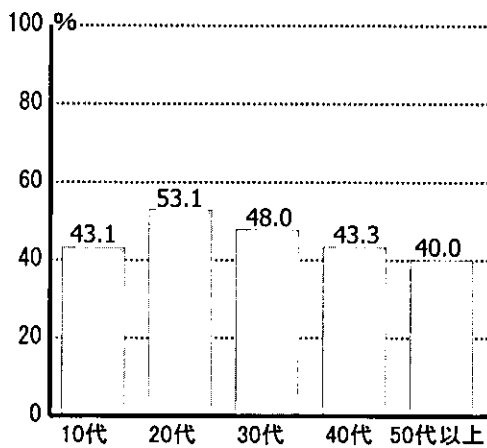
## インターネット利用目的



基本属性	人数	%	基本属性	人数	%
<b>居住形態</b>			<b>セックスしたい相手の性別</b>		
一人暮らし	813	39.4	男性のみ	1285	62.3
宿舎・寮	88	4.3	主に男性	551	26.7
親・兄弟と同居	873	42.3	男女両方	182	8.8
友達と同居	50	2.4	女性のみ	3	0.1
恋人と同居	141	6.8	主に女性	21	1.0
その他	92	4.5	わからない	17	0.8
無回答	5	0.2	無回答	3	0.1
<b>職業</b>			<b>恋人がいる</b>		
学生	421	20.4	相手が男性	897	43.5
会社員	793	38.5	相手が女性	145	7.0
公務員・団体職員	214	10.4	<b>セックスフレンドがいる</b>		
アルバイト	147	7.1	相手が男性	619	30.0
派遣・契約社員	84	4.1	相手が女性	43	2.1
自営業	139	6.7	<b>親へのカミングアウト</b>		
自由業	72	3.5	カミングアウトしている	285	13.8
無職	116	5.6	両親ともに	143	6.9
その他	62	3.0	母親のみ	136	6.6
無回答	14	0.7	父親のみ	6	0.3
<b>学歴</b>			<b>親以外へのカミングアウト</b>		
大学院修了(在)	177	8.6	カミングアウトしている	1059	51.4
大学卒(在)	1056	51.2	1人だけ	201	9.7
短大卒(在)	60	2.9	2人~3人	240	11.6
専門学校卒(在)	284	13.8	4人~5人	137	6.6
高校卒(在)	410	19.9	6人~9人	137	6.6
中学卒(在)	71	3.4	10人以上	313	15.2
無回答	4	0.2	<b>これまでに性被害</b>		
<b>婚姻形態</b>			あり	660	32.0
未婚	1882	91.3	<b>肝炎予防ワクチン接種あり</b>		
既婚	109	5.3	A型	54	2.6
別居中	5	0.2	B型	114	5.5
離婚	51	2.5	<b>健康保険証</b>		
死別	2	0.1	所持している	1883	91.3
無回答	13	0.6	<b>喫煙状況</b>		
<b>自認する性的指向</b>			喫煙経験なし	904	43.8
ゲイ	1454	70.5	時々吸う	136	6.6
バイセクシュアル	428	20.8	ほぼ毎日吸う	854	41.4
ヘテロセクシュアル	7	0.3	禁煙中	148	7.2
決めたくない	91	4.4	<b>飲酒状況</b>		
わからない	72	3.5	飲酒経験なし	198	6.6
その他	8	0.4	時々飲む	1467	71.1
無回答	2	0.1	ほぼ毎日飲む	337	16.3
			禁酒中	43	2.1

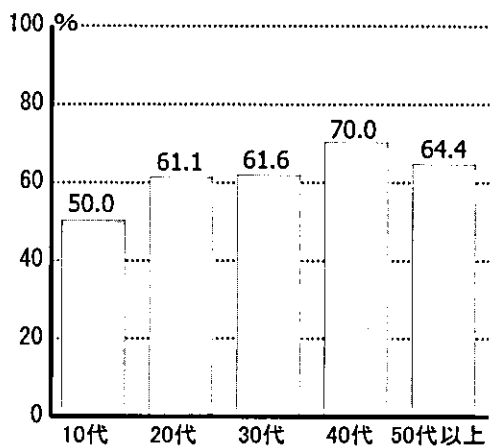
### 3. ゲイ・バイセクシュアルの交友関係における出来事①

電話をしても出してもらえなくなったこと



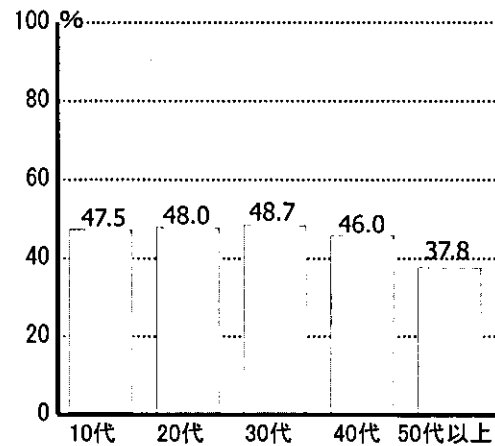
「電話をしても出してもらえなくなったこと」がある人の割合は 40.0%～53.1%であり年齢階級と有意でした ( $P=0.014$ )。中でも 20代と 30代の人にこういった経験をした人の割合が多かったことが示されました。このような出来事は、自分のことをあからさまに拒絶されたように感じる経験や、人間関係を一方的に切られてしまった経験となるのではないかと思います。

相手の本名をなかなか教えてもらえなかったこと



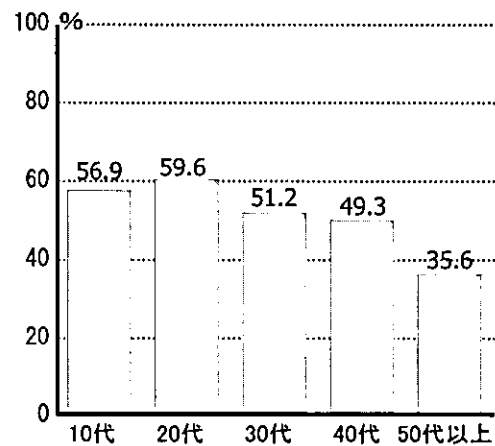
また、「相手の本名をなかなか教えてもらえなかったこと」がある人の割合は 50.0%～70.0%、年齢階級と有意であり ( $P=0.014$ )、年齢が上がるにつれて多くなる傾向にありました。心を許して本名を教えたことによって、逆に個人情報を悪用されるような事態へ発展しかねないかと不安になる様子が窺われます。親密な人間関係を築きたいけれども、社会的な不利益をおそれ、近づききれない、心を許しにくいという、ゲイの交友関係における人間関係の構築の難しさがあらわされているのかもしれない。

自分が言われたいくないことを、他の人に言われてしまったこと



「自分が言われたいくないことを、他の人に言われてしまったこと」がある人の割合は37.8%～48.7%、年齢階級と有意な関連はありませんでした。10代～30代では半数弱の人がこういった経験をしており、自分のプライバシーに関わることを許可なく他の人に言われてしまうことは、人間関係の中で不信感を抱かざるを得ないような経験かもしれません。

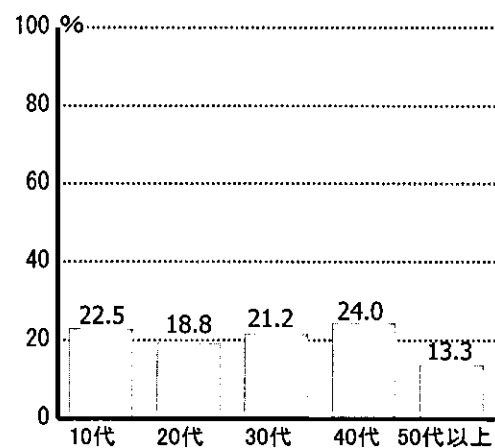
自分はしたくなかったのに相手の要求に合わせてセックスしたこと



「自分はしたくなかったのに相手の要求に合わせてセックスしたこと」がある人の割合は35.6%～59.6%、年齢階級と有意 ( $P<0.01$ ) であり、10代～30代では半数以上の人がこういった経験をしていました。性に関して対等な意思疎通ができない一方的な人間関係があることが示唆されているように思われます。

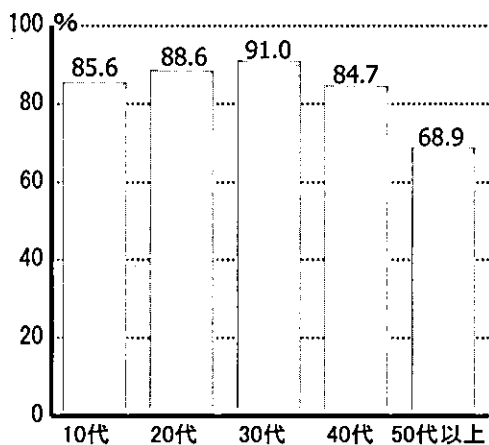
「インターネットの掲示板に書き込みをした時に、意地の悪いレスを書かれたこと」がある人の割合は13.3%～24.0%、年齢階級と有意な関連はありませんでした。どの年齢層においても少ない割合ではありますが、インターネットの掲示板に自分が書き込みをしたことに対して、意地の悪いレス（レスポンス）やネガティブな反応をされるということは、匿名性の人間関係の中でも、自分が否定されたように感じると共に傷つきの経験になるものと思われる。

インターネットの掲示板に書き込みをした時に、意地の悪いレスを書かれたこと



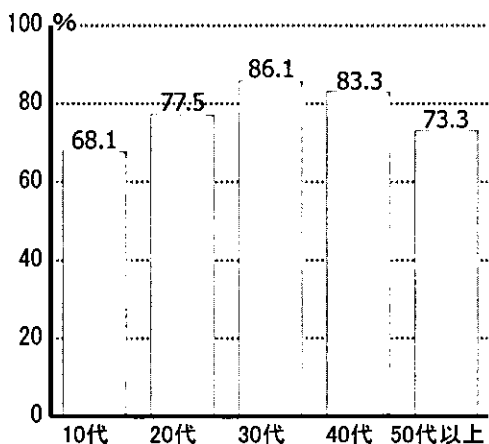
## 4. ゲイ・バイセクシュアルの交友関係における出来事②

異性愛の社会では出会えないような人と出会えたこと



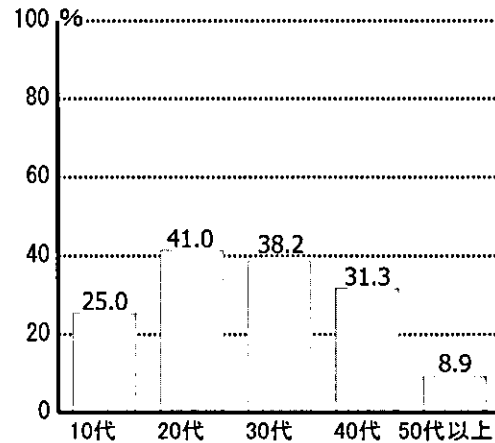
「異性愛の社会では出会えないような人と出会えたこと」がある人の割合は68.9%～91.0%、年齢階級と有意でした ( $P<0.01$ )。50代以上になるとこういった経験をしたことがある人の割合は他の年齢層と比較すると少ない傾向にありますが、10代～40代では84.7%～91.0%といった高い経験率でした。同じ性的指向というつながりだけで、異なる年齢層や異なる職種など様々な人と出会えることは、ゲイ・バイセクシュアルの交友関係から得られる喜びの一つかもしれません。

心を許せる友達との付き合い



「心を許せる友達との付き合い」がある人の割合は68.1%～86.1%、年齢階級と有意でした ( $P<0.01$ )。どの年齢層も70%ほどの人が心を許せる友達との出会いを経験していました。年齢が高くなるにつれて同じ性的指向の仲間との安定した関係を実感できているのではないかと考えられます。

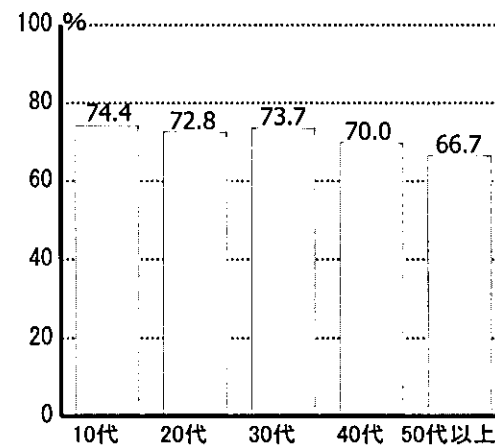
ゲイコミュニティのイベントに参加して楽しかったこと



「ゲイコミュニティのイベントに参加して楽しかったこと」がある人の割合は8.9%～41.0%、年齢階級と有意でした ( $P < 0.01$ )。こうした経験をしたことがある人は20代～40代は他の年齢層より高い割合でした。ゲイ・バイセクシュアルの交友関係が始まったばかりの10代や年齢が上になるとこういった経験は少ない傾向でした。

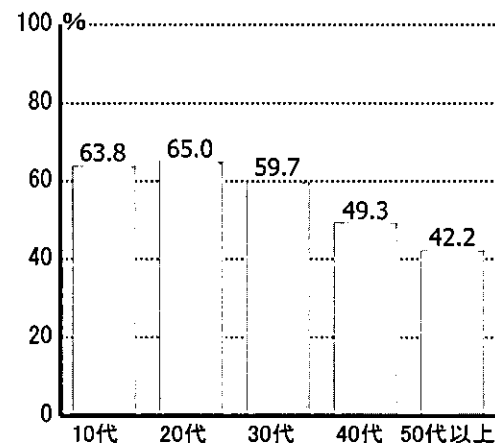
「インターネットの掲示板に書き込みをして、好意的なレスをもらったこと」がある人の割合は66.7%～74.4%、年齢階級と有意な関連はなく、どの年齢層においても70%前後の人がこういった経験をしているようです。インターネット空間という匿名性の人間関係の中でも、好意的なレスポンスを掲示板上でもらえることは、同じゲイ・バイセクシュアルの仲間からサポートされていると思える貴重な機会であると思われます。

インターネットの掲示板に書き込みをして、好意的なレスをもらったこと

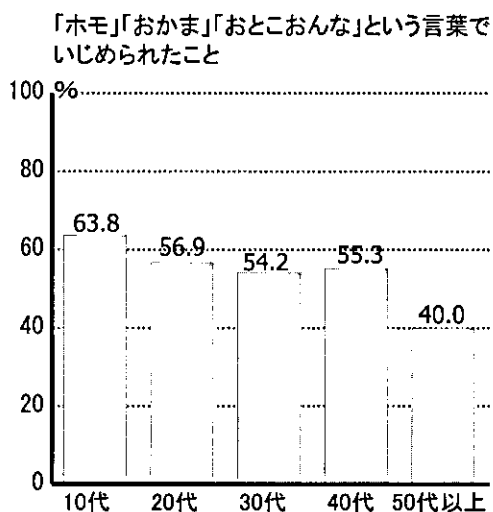
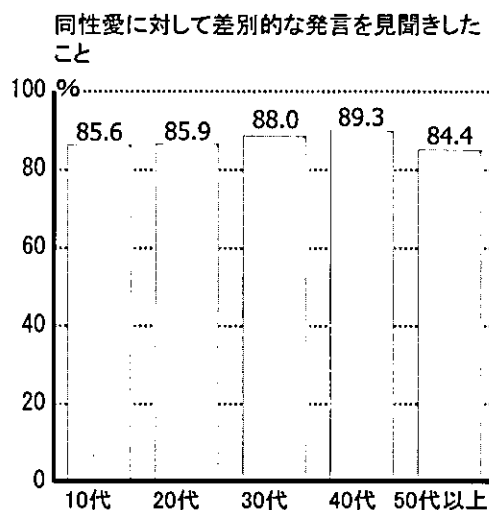


「『この人になりたい』と目標になる人がいること」がある人の割合は42.2%～65.0%、年齢階級と有意でした ( $P < 0.01$ )。年齢が高くなるほど、目標になる人の存在を得ることはなかなか難しいのかもしれませんが、少なくとも30代までの比較的若年層の多くの人が、ゲイ・バイセクシュアルの交友関係の中で目標になるような人=ロールモデルを得ているということかもしれません。「異性愛の社会では出会えないような人との出会い」の経験同様に、ゲイ・バイセクシュアルのコミュニティに踏み出したからこそもたらされた出会いであったと感じられているとも言えるでしょう。

「この人になりたい」と目標になる人がいること



## 5. 生育歴における出来事



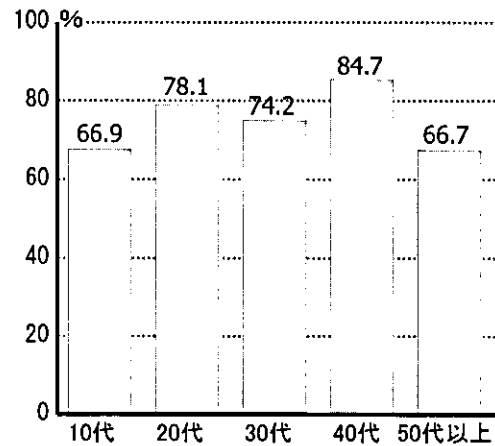
「同性愛に対して差別的な発言を見聞きしたこと」がある人の割合は84.4%～89.3%、年齢階級と有意な関連はありませんでした。しかしながらどの年齢層においても80%を超えており、同性愛に対する社会的な差別や偏見の内面化を促進する可能性がある経験であると言えるでしょう。

「『ホモ』『おかま』『おとこおんな』という言葉でいじめられたこと」がある人の割合は40.0%～63.8%、年齢階級と有意でした ( $P=0.045$ )。性的指向に関連したこういった言葉によるいじめ被害割合は、どの年齢層においても50%を超えており、とりわけ10代では60%以上であるなど、若年層ほど被害割合は高い傾向にありました。性的指向に直接的に関連する言葉によるいじめは、ゲイ・バイセクシュアル男性の発達段階や生育歴における大きな心理的危機状態を招くことのひとつと考えられます。教育現場では、「いじめに性的指向のことが関連している可能性があるかもしれない」という視点をもつこと、それによっていじめの背景要因に性の問題があるかもしれないというアンテナを張っておく必要があると言えるでしょう。生育歴におけるいじめ被害経験は、同性愛嫌悪の内面化や性的指向への心理的葛藤の強化につながり、ひいては異性愛者を装うことによって異性愛社会に過剰適応せざるを得ない事態にもつながっているように思われます。

「同性愛者ではないかと噂されたこと」がある人の割合は66.7%～84.7%、年齢階級と有意でした ( $P=0.001$ )。とりわけ20代～40代においては74.2%～



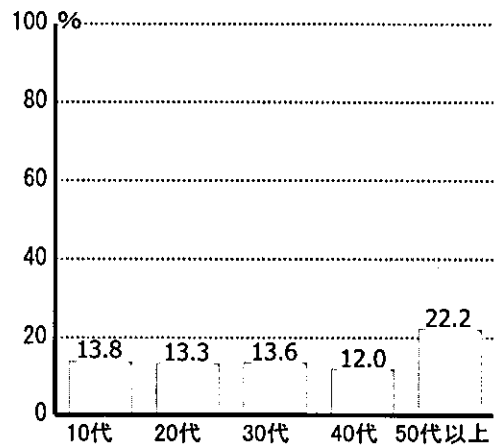
同性愛者ではないかと噂されたこと



84.7%とかなり高率でした。自らの性的指向が揶揄のニュアンスを含む噂話の対象にされる体験も、自己否定感につながりかねないと考えられます。

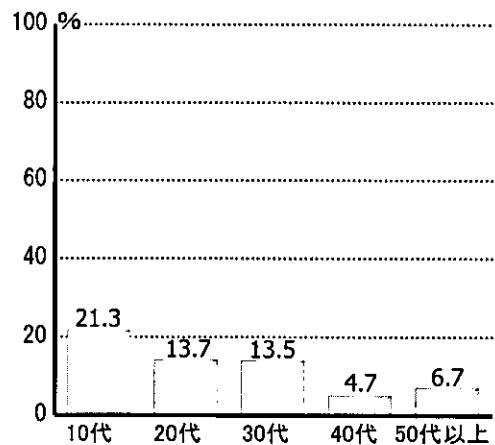
「ゲイ・バイセクシュアルであるということが理由で友達をなくしたこと」がある人の割合は 12.0%～ 22.2%、年齢階級と有意な関連はありませんでした。50代以上のこういった経験割合は 20%を超えている点が特徴的です。

ゲイ・バイセクシュアルであるということが理由で友達をなくしたこと



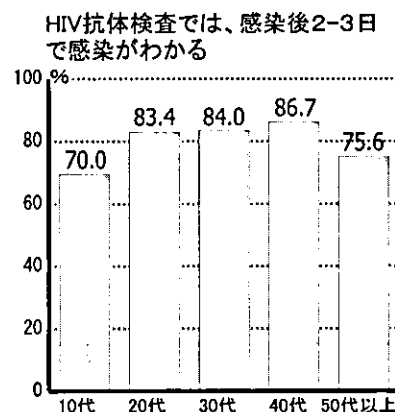
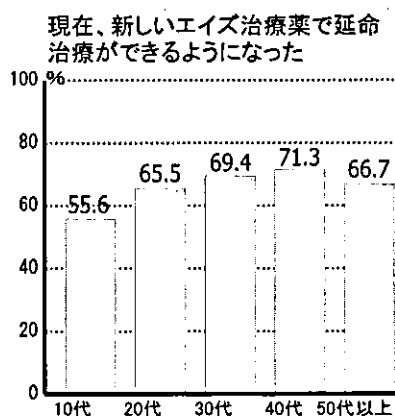
「身体的暴力をふるわれたこと」がある人の割合は 4.7%～ 21.3%、年齢階級と有意でした ( $P<.001$ )。身体的暴力による被害割合は 10代では 20%を超えており、若年層ほど身体的暴力の被害に遭っている傾向にありました。

身体的暴力をふるわれたこと



いじめ被害と同性愛者ではないかと噂された経験割合は高い一方、身体的暴力の被害割合やゲイ・バイセクシュアルであるということが理由で友達をなくしたことの割合は比較的低いことが示されました。身体的暴力による被害割合は全体的に低い傾向にありますが、身体的暴力の形式を取らないいじめ被害や傷つきの経験（言葉によるいじめ被害や同性愛ではないかと噂されたこと、友達をなくしたこと）は教育現場などにおいては顕在化しにくいと言えます。身体的に傷が残らないことによって心の傷は周囲の大人に気付かれることなく、結果として現状を認識されないが故に対策が講じられていないとも言えるでしょう。目に見える形での身体的暴力の経験は比較的少なくても、社会的な差別や偏見をはじめとしてゲイ・バイセクシュアル男性は日々様々な場面で傷ついていると考えられます。

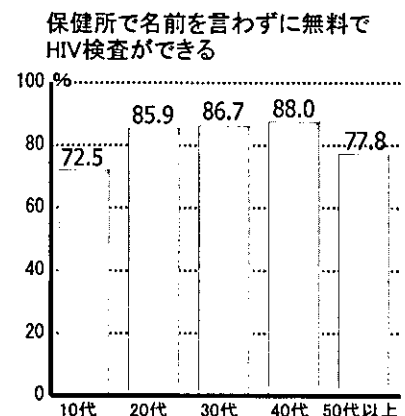
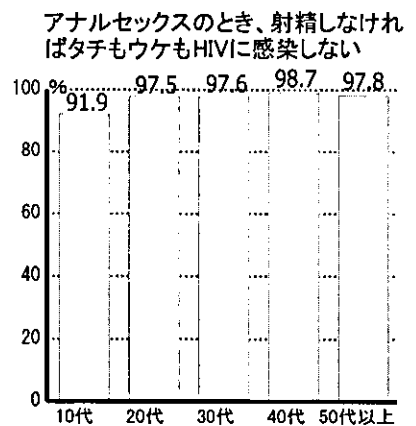
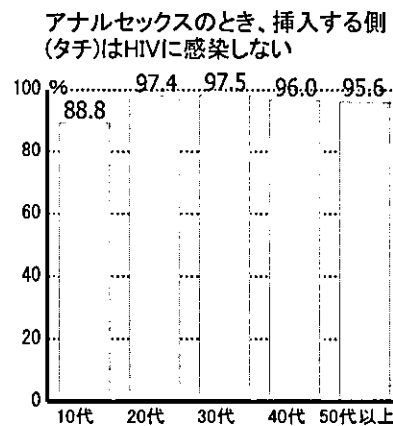
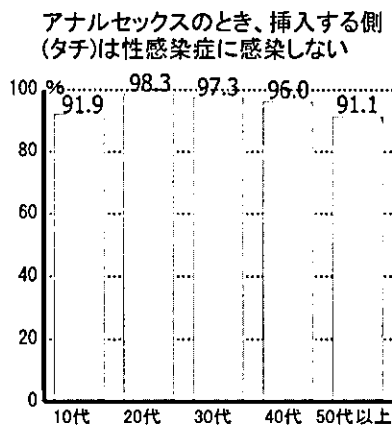
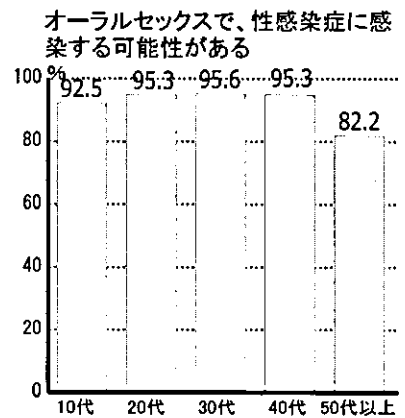
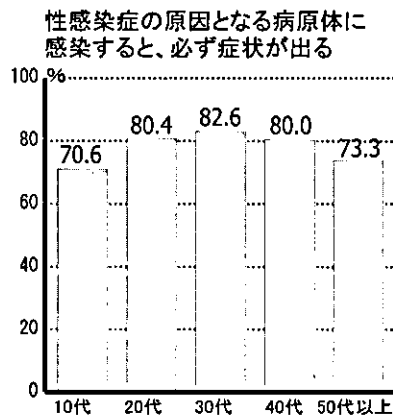
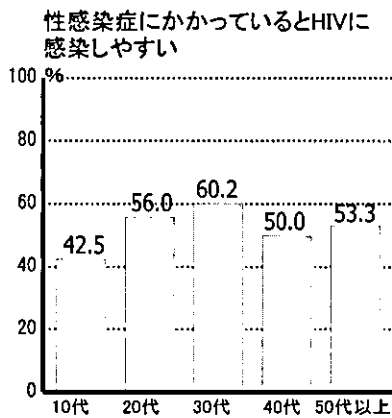
## 6. HIV/ 性感染症に関する一般知識



全体としてはHIV/ 性感染症に関する正しい知識はほぼ浸透していると考えられる結果でしたが、年齢層によって正答割合に差が見られました。正答割合が年齢階級と有意であり、10代の正答割合が他の年齢層よりも低かった項目は、「現在、新しいエイズ治療薬で延命治療ができるようになった」(P=0.12)、「HIV抗体検査では、感染後2-3日で感染がわかる」(P<0.001)、「性感染症にかかっているとHIVに感染しやすい」(P=0.001)、「性感染症の原因となる病原体に感染すると、必ず症状が出る」(P=0.012)でした。どの知識も年齢が上がるにつれて正答割合もほぼ上昇していますが、ゲイ・バイセクシュアル男性を対象としたHIV予防対策の中で、とりわけ若年層を対象に知識の普及を図る必要があると考えられます。

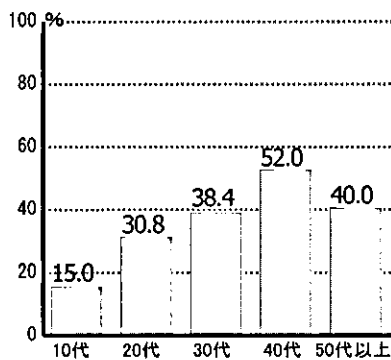
また、アナルセックスに関する項目ではどの年齢層の正答割合も80%を超えていますが、「アナルセックスの時、挿入する側(タチ)は性感染症に感染しない」(P<0.001)「アナルセックスの時、挿入する側(タチ)はHIVに感染しない」(P<0.001)「アナルセックスの時、射精しなければタチもウケも両方ともHIVに感染しない」(P=0.001)の項目においても10代の正答割合は他の年齢層に比べて低い傾向にありました。

「A型肝炎はワクチンで予防することができる」(P=0.040)、「B型肝炎はワクチンで予防することができる」(P=0.023)、「保健所で名前を言わずに無料でHIV検査できる」(P<0.001)の正答割合は21.3%~33.6%であり、ワクチン接種による肝炎予防についての知識はどの年齢層にもほとんど浸透しておらず、とりわけ若年層には情報が届いていないことが示唆されました。これまでにA型肝炎がゲイ・バイセクシュアル男性の間で流行したこともあり、ワクチンについての情報提供をHIV予防対策の中に盛り込んでいく必要があると考えられます。

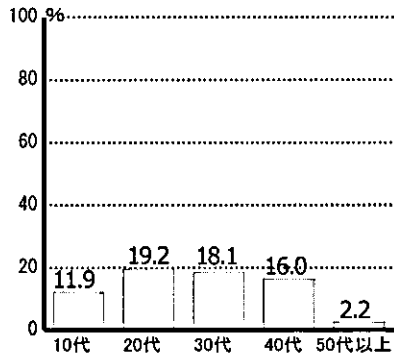


# 7. 過去 6 ヶ月間の性的活動

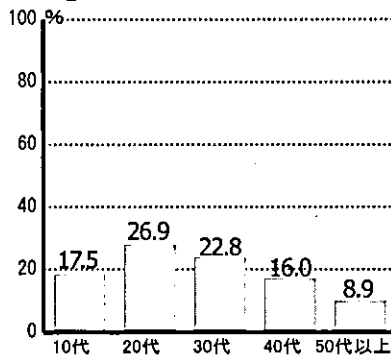
サウナ系ハッテン場に行ったこと



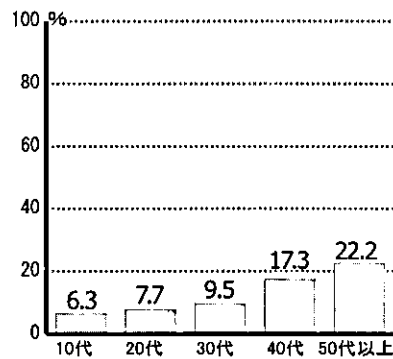
ビデオボックス系ハッテン場に行ったこと



マンション系ハッテン場に行ったこと



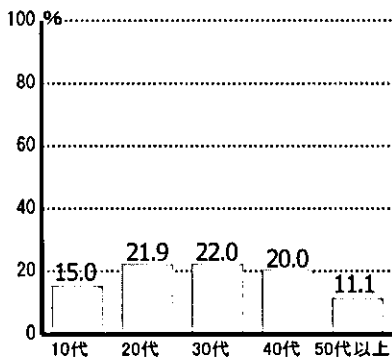
ハッテン映画館に行ったこと



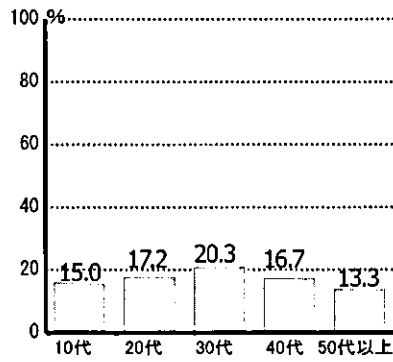
年齢階級と経験割合が有意であり、若年層がその経験割合が高かった項目は、「ビデオボックス系ハッテン場に行ったこと」(P=.010)、「マンション系ハッテン場に行ったこと」(P<.001)、「ゲイナイトに行ったこと」(P<.001)、「お金をもらって男性とセックスしたこと」(P<.001)、「インターネットで知り合った男性とセックスしたこと」(P<.001)、「携帯電話の出会い系サイトで知り合った男性とセックスしたこと」(P<.001)、「ゲイコミュニティのイベントに参加したこと」(P=.012)でした。一方、年齢層が上の者の経験割合が高かった項目は、「サウナ系ハッテン場に行ったこと」(P<.001)、「ハッテン映画館に行ったこと」(P<.001)、「お金を払ってセックスしたこと」(P<.001)でした。年齢層によってセックスのために利用する場所が異なることや、お金を介したセックスが成立していることが窺えます。

(注) ハッテン場とはゲイ・バイセクシュアル男性がセックスを含めた出会いを求めて集まる場所であり、中にはサウナやビデオボックスといった商業的な施設もあります。

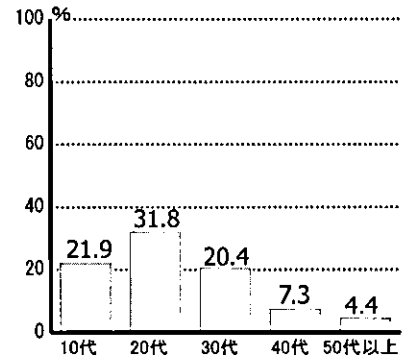
ハッテン公園に行ったこと



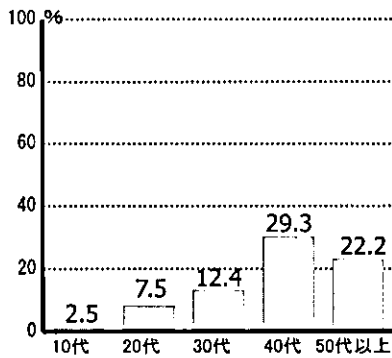
ハッテントイレに行ったこと



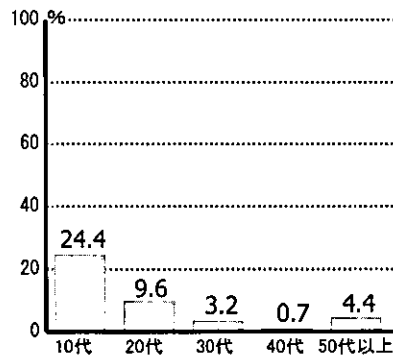
ゲイナイトに行ったこと



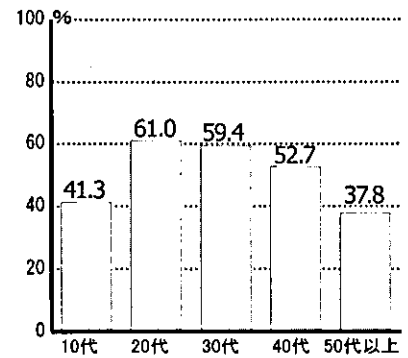
お金を払って男性とセックスしたこと



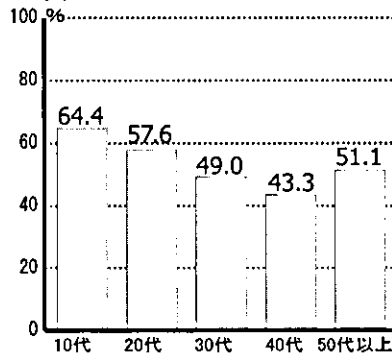
お金をもらって男性とセックスしたこと



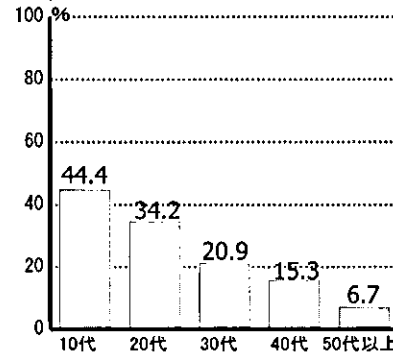
ゲイバーに行ったこと



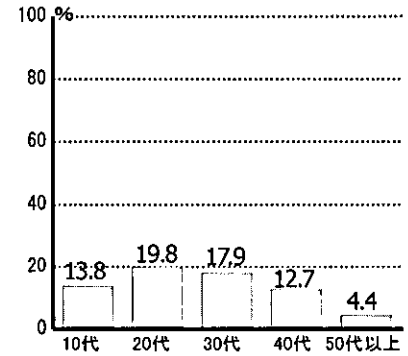
インターネットで知り合った男性とセックスしたこと



携帯出会い系サイトで知り合った男性とセックスしたこと



ゲイコミュニティのイベントに参加したこと



## ●コンドーム使用状況

2,062人のうち、過去6ヶ月間に男性とのセックスがあった人は89.3% (1,842人) でした。本調査では最もHIV感染の可能性の高い行為を、コンドームを使わないアナルセックスとして捉えて分析するため、アナルセックス時におけるコンドーム使用状況について分析しました。

このうちHIV陰性あるいは感染状況を知らない人は1,792人であり、そのうちアナルセックスの経験があった人は75.1% (1,346人) でした。この1,346人のコンドーム使用状況を年齢階級別に分析したところ、必ず使った人の割合は10代が最も低く、年齢が上がるにつれて必ず使う割合も増加傾向にあり、若年層ほど「使わなかった」割合は高い傾向にありました ( $P<0.001$ )。

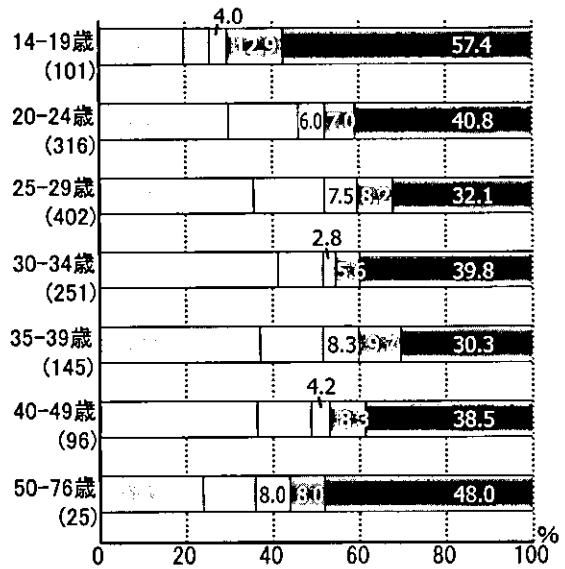
アナルセックス経験者 (1,346人) のコンドーム使用状況を過去6ヶ月間のセックスの相手別に分析すると、相手の人数が多い人ほど必ず使う傾向にあり、人数が少ないほど「使わなかった」割合は高い傾向にありました ( $P<0.001$ )

この1,346人の過去6ヶ月間におけるセックスの相手の種別は、特定のみが25.8% (347人)、不特定のみが32.7% (440人)、特定と不特定の両方が41.5% (559人) でした。

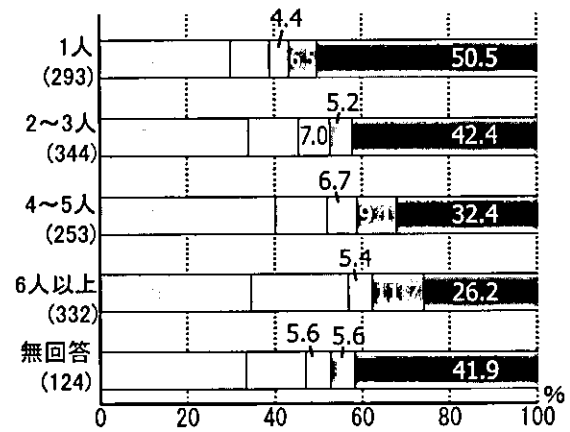
また、この1,346人の過去6ヶ月間におけるアナルセックス経験種別は、挿入のみ経験者は22.8% (307人)、被挿入のみ経験者は22.7% (305人)、挿入・被挿入両方経験者は54.5% (734人) でした。コンドーム使用状況をこのアナルセックス経験種別ごとに分析したところ、コンドームの使用割合が高かったのは挿入のみ経験者、被挿入のみ経験者、挿入・被挿入両方経験者の順でした ( $P<0.001$ )。

		五分五分	使わなかった
--	--	------	--------

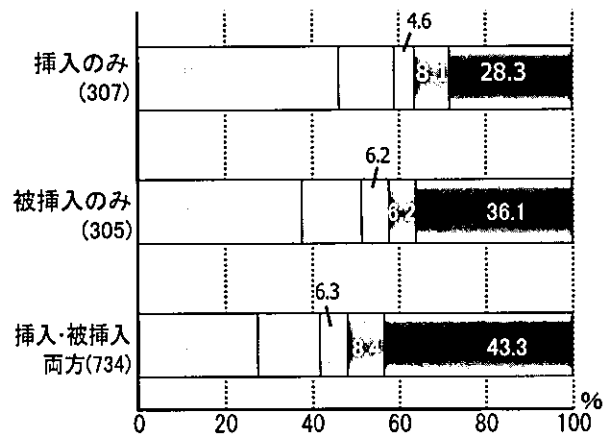
アナルセックス経験者のコンドーム  
使用割合(年齢階級別)



アナルセックス経験者の  
コンドーム使用割合(セックスの相手の人数別)

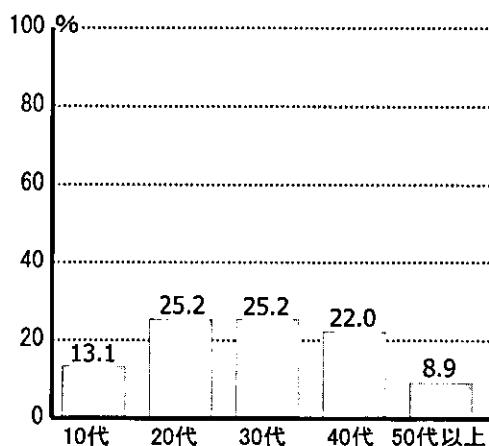


アナルセックス経験者の  
コンドーム使用割合(挿入・被挿入別)



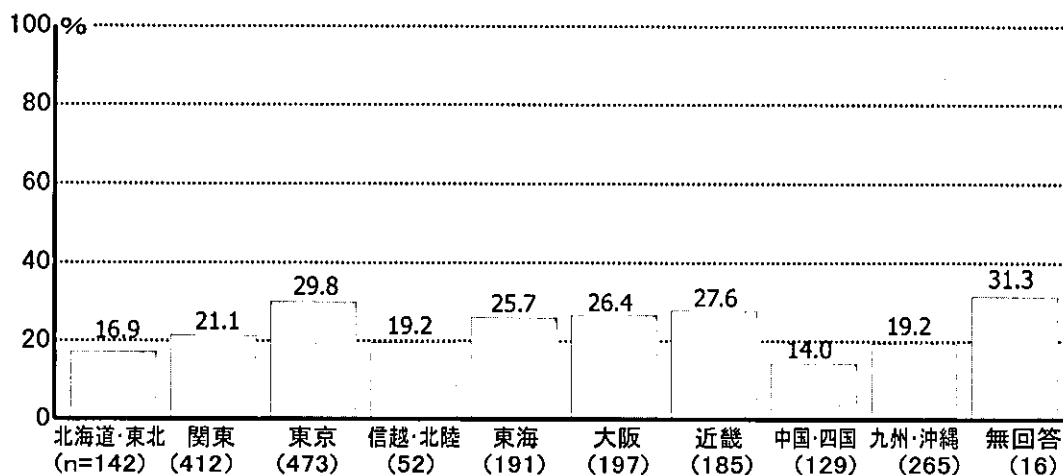
## 8. 過去 1 年間の HIV 抗体検査受検状況

過去1年間のHIV抗体検査受検割合  
(年齢階級別)



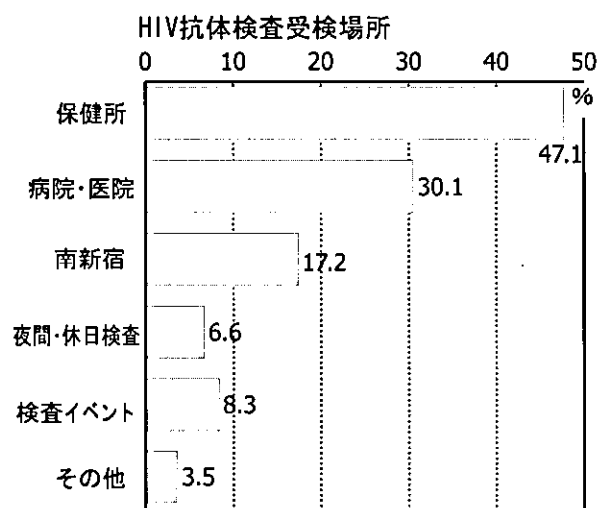
過去 1 年間の HIV 抗体検査受検割合は 8.9%～ 25.2%、年齢階級と有意でした ( $P<.001$ )。また、居住地域別の HIV 抗体検査受検割合は 14.0%～ 31.3%であり、居住地域とも有意でした ( $P=.001$ )。20 代～ 30 代の受検割合に比較すると他の年齢層の受検割合は低いことが示され、関東地方 (東京を除く)、東京都、東海地方、大阪府、近畿地方などの都市部在住者の受検割合は 20%を超えており、他地域よりも高い割合でした。受検場所は保健所が最も多く、次いで病院・医院、南新宿検査・相談室、夜間・休日検査、検査イベント、その他の順でした。

過去1年間のHIV抗体検査受検者割合(居住地域別)



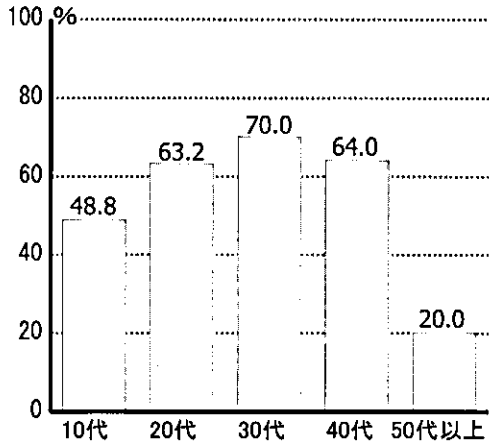


10代はHIV/性感染症に関する一般知識の正答割合も他の年齢層に比較すると低く、10代のアナルセックス経験者のコンドーム使用割合も低く、HIV抗体検査受検割合も低いことが示されました。これらのことから、若年層に対する知識の普及やコンドーム使用を促すことと同時に、HIV抗体検査の受検を促進させることや若年層が受検しやすい検査環境を整えていくことも重要であることが示唆されました。また、東京、大阪、名古屋などの都市部以外の地域における受検割合が低かったことから、地方においてはゲイ・バイセクシュアル男性が検査を受けづらい環境があることが推察されます。検査環境の地域格差がないような対策も今後急務であると考えられます。検査受検場所は保健所が最も多かったことから、ゲイ・バイセクシュアル男性の健康問題やそれに関連する心理・社会的要因について、保健師や看護師が研修する機会の提供も必要であると考えられます。



# 9. ラッシュおよびゴメオ使用・性感染症の既往

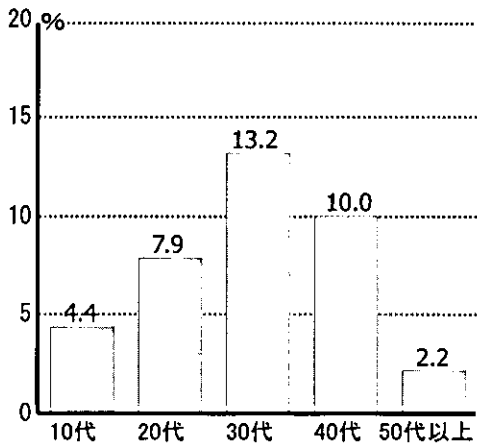
これまでにラッシュを使ったことがある



これまでにラッシュを使ったことがある人の割合は20.0%～70.0%、年齢階級と有意でした ( $P<.001$ )。どの年齢層もラッシュ使用割合は比較的高く、20代～40代の使用割合は60%を超えていました。

また、居住地別のラッシュ使用割合は53.5%～70.2%、居住地とも有意でした ( $P=.003$ )。東京都内および大阪府内在住者の使用割合は高い傾向にあり、その他の地域においても使用割合は50%を超えていました。

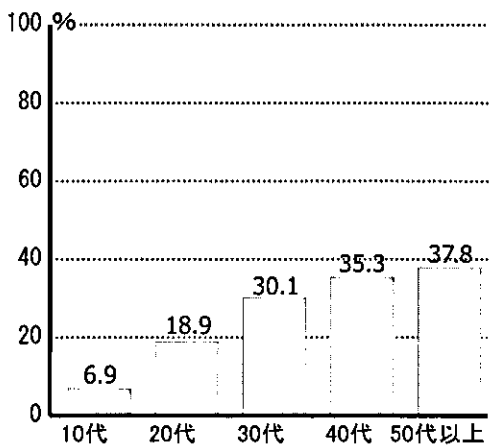
これまでにゴメオを使ったことがある



これまでにゴメオを使ったことがある人の割合は2.2%～13.2%、年齢階級と有意でした ( $P=.004$ )。

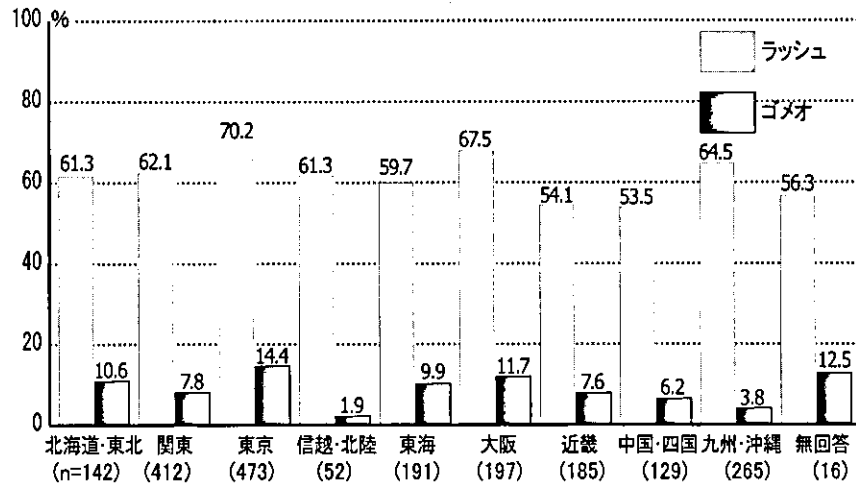
また、居住地別のゴメオ使用割合は3.8%～14.4%であり、居住地とも有意でした ( $P<.001$ )。北海道・東北地方、東京都および大阪府内在住者の使用割合は高い傾向にありました。

これまでの性感染症の既往

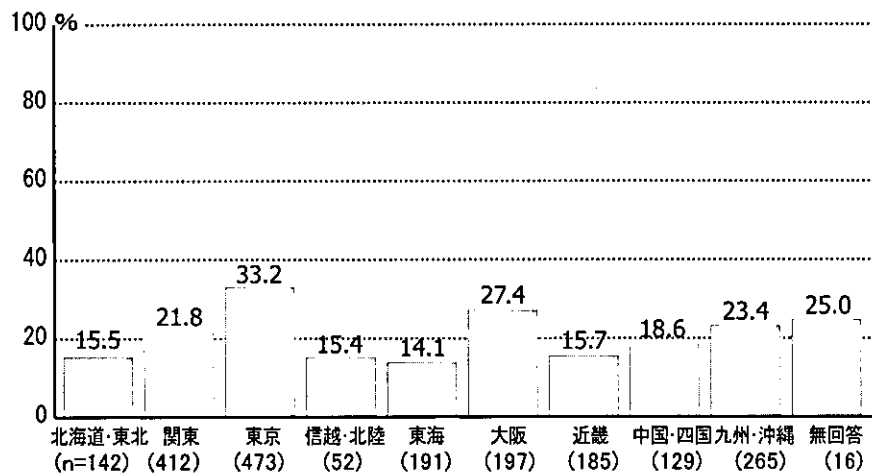


ラッシュやゴメオといった化学物質の使用割合が決して低くなかったことから、これらの物質が健康に与える被害についての情報を広く伝達していく必要があると考えられます。また、これらの物質はセックスの興奮を高めることを目的として使われることが多いですが、セックスの最中に使用することによってセイファーセックスについての冷静な判断能力を低下させる恐れもあり、HIV予防の観点からも化学物質についての情報提供および予防対策が必要であると考えられます。

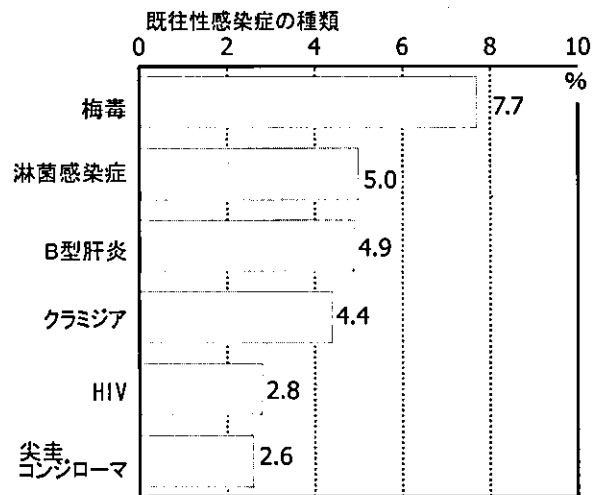
これまでにラッシュ・ゴメオを使った経験者の割合(居住地域別)



過去1年間の性感染症の既往者の割合(居住地域別)

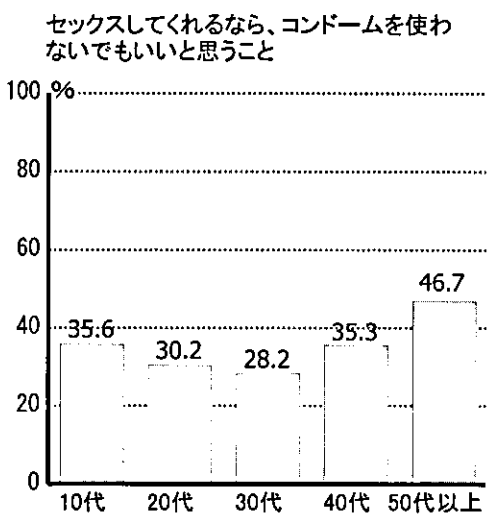
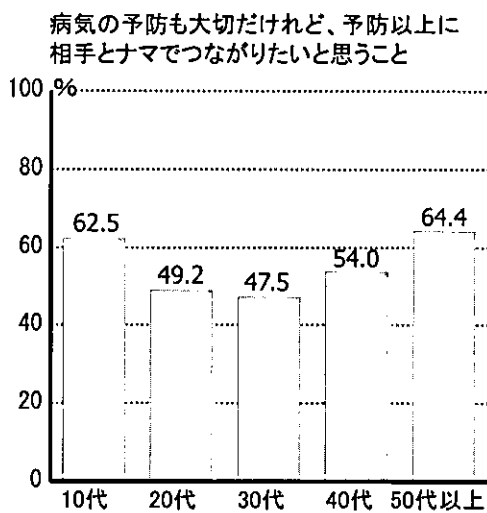


これまでに性感染症の診断を受けたことがある人は6.9%~37.8%、年齢階級と有意でした ( $P<0.01$ )。また、居住地域別の性感染症の既往は14.1%~33.2%であり、居住地域とも有意でした ( $P<0.01$ )。年齢が上がるほど既往割合は高くなり、東京都および大阪府内在住者の既往割合は他の地域より高いことが示されました。また、性感染症の既往割合は梅毒が最も多く、次いで淋菌感染症、B型肝炎、クラミジア、HIV、尖圭コンジローマの順でした。本調査におけるHIVの陽性割合は2.8%であり、これまでに実施されているHIV抗体検査受検者(男性同性間性的接触)におけるHIV陽性割合は2~4%という報告とほぼ同様の結果でした。



ラッシュやゴメオといった化学物質の使用や性感染症の既往などが、20代~40代の比較的若年層や都市部を中心に広がっていることが示唆されています。

# 10. セックスに投影される心理



「病気の予防も大切だけれど、予防以上に相手とナマでつながりたいと思うこと」は 47.5%～ 64.4%、年齢階級と有意でした ( $P=0.003$ )。「セックスしてくれるなら、コンドームを使わないでもいいと思うこと」は 28.2%～ 46.7%、年齢階級と有意でした ( $P=0.030$ )。同様に、「コンドームは相手との距離感を感じさせるものだと思うこと」は 30.8%～ 43.2%、年齢階級と有意でした ( $P=0.047$ )。

これらの項目は、10代および40代以上が高い割合になっています。ゲイの交友関係の構築が始まったばかりの時期である10代の人たちは、日常生活において感じている寂しさや社会からの孤立感、阻害感をセックスの中で埋め合わせようとしているのかも知れません。また、HIV 予防行動を取ることに以上、セックスの相手との心理的距離感を一気に縮めたい、親密でありたいという気持ちが優先されるなど、様々な思いを抱きながらセックスしていることを表しているように思われます。あるいは普段から知らず知らずのうちに、色々な思いをセックスに託しているのかもしれませんが。また、セックスに投影されるこういった感情を持つ人の割合が若い人ほど多いことと、若い人ほど精神的健康状態が全般的に悪化傾向であるという現状とも関連があると思われます。翻って40代以上でセックスに投影される感情がある人も、日常生活の寂しさやゲイとしての生きづらさ、あるいは性的な出会いの機会が減ることへの恐れや寂しさ、自分の性的な魅力が減退するのではないかといった不安などを抱いているのかもしれません。そのよ